

第 42 期第 14 回理事会議事録

日 時：2024 年 3 月 29 日（金） 13 時 00 分～17 時 30 分

会 場：日本気象学会事務室（Web 会議方式）

出席理事：佐藤薫，橋田俊彦，青柳暁典，荒川知子，池上雅明，稲津將，榎本剛，斎藤篤思，佐藤正樹，竹見哲也，竹村俊彦，中村尚，橋本明弘，早坂忠裕，堀之内武，三好建正，渡部雅浩，以上 17 名（理事数現在 20 名）

欠席理事：植田宏昭，高谷康太郎，坪木和久

出席監事：鈴木靖，吉田聡

事務局：勝山税，斎藤誠一郎，萬納寺信崇

議題

1. 協議事項

1) 会員の新規加入について

新入会員 30，退会 13 を全会一致で承認した。2024 年 3 月 27 日現在，会員数 3,298 名で個人会員は 3,109 名。

2) 第 42 期第 13 回理事会議事録の確認

議事録案について，全会一致で承認した。

あわせて，同じ日に開催した第 42 期第 2 回支部長会議議事概要の確認を行った。

3) 第 43 期理事選任候補者について

理事会は、第 42 期第 11 回理事会（2023 年 10 月 6 日）において，第 43 期理事選任候補者のうち選挙で選ぶ定数を 16 名とし，残りの定数 4 名は，選挙で 16 名が確定された後に選ぶための枠として確保することとした。また，選挙の開票に先立ち，第 42 期第 2 回臨時理事会（2024 年 3 月 7 日）の決議により，理事候補者が 16 名に達しない場合は得票集が上位 16 位までの者を基本的に理事選任候補者とすることを確認した。

第 43 期役員候補者選挙において，細則第 22 条第 5 号による理事候補者に当選した 7 名を同上第 7 号前段の理事選任候補者とし，選挙では次点で理事候補者とならなかったが得票数が上位の 9 名を同条第 7 号後段の但し書きの理事選任候補者とするを全会一致で承認した。

さらに追加の理事選任候補者 4 名の選出にあたっては，第 43 期の理事選任候補者 16 名の意向を十分尊重して決定することを確認するとともに，4 名のうち 1 名について，理事長から支部の観点を考慮する提案があり，賛成多数で承認した。

また，理事長から，①細則第 22 条第 5 号、得票数に関する理事候補者の基準を見直すこと，②役員候補選挙における公正な活動についての検討の必要性が述べられ，第 43 期理事会への申し送り事項とされた。

4) 特定寄附金の募集に係る募金目論見書「夏の学校開催支援寄附金」の募集について

橋田副理事長から，特定寄附金の募集として，夏の学校支援について 4 月から募集を開始したいこと，支援額は年間 30 万円を見込み，募集は 5 年分 150 万円を目標とすること，寄附募集中の今年の夏の学校への支援にも集まった寄附金を使用するなどの説明があった。

初めてのケースであるので、寄附募集の実施とその必要性をホームページや X (旧 Twitter) など広く様々な手段で知らせて募金を求めていくこと、寄附をいただき実施する夏の学校をこれまで以上に効果的で規律のあるものとなるようしていくとともに、終了後にはウェブサイト上で夏の学校校長（参加者の学生）から感謝の報告をすることが必要などの議論がなされた後、目論見書案を全会一致で承認した。

2. 報告事項

1) WG からの報告

①「天気」と関連する会員サービスの検討 WG・・・以下の内容が報告された。

- ・1月にオンラインに移行し、返事のない方には冊子を送っていない。600部印刷して400部発送している。作業負担は軽減された。
- ・印刷体の送付を希望しているが、それが学会の赤字体質の悪化につながらないか心配しているとの声があるが、印刷・送付に係る料金を頂いているため大丈夫である。

②大会のあり方 WG・・・以下の内容が報告された。

- ・現在の気象学会独自に行う春季大会を取りやめ、春は JpGU 連合大会での共催セッションを充実させる形で活動することにし、気象学会独自の大会は、秋季大会の年1回とするという方向を WG としてとりまとめた。今日の理事会での議論を踏まえて、必要な事項を総会に報告する。
- ・移行時期について、最短で 2026 年度から移行することを検討していたが、準備に時間がかかることが想定されるため 2027 年度からの移行が現実的としている。
- 大会を年1回とする方向と具体的な運営について、以下の議論があった。
- ・気象庁本庁が大会の実行委員会を引き続き担うかどうかは、会場の確保（虎ノ門庁舎では対応できない、東京の会場費が高いなど）、連携の重要性、運営内容の外部委託の内容などを踏まえて検討が必要である。
- ・JpGU 連合大会の会場は大きな部屋でも収容人数が約 120 名と比較的小さく、様々な制約がある。シンポジウムや受賞記念講演などは行うのが難しいため、秋季大会を 5 日にすることや受賞記念講演など関連行事について精査が必要。
- ・大会を 1 回にすることは総会で説明することでよい。なお、総会を JpGU 連合大会会場で開催する場合は、参加票がなくても参加できる。表彰式も行うことができるが、受賞記念講演は別途行う必要がある。
- ・大会を 1 回にすることは仕方ないが、秋季大会を 5 日間に拡大するのは負担が大きい。
- ・大会参加費を値上げすることで外部委託を増やして対応する。

移行時期について、以下の議論があった。

- ・秋季大会を完全に新形式で実施しなくても、先行的に春季大会の開催をとりやめ、JpGU 連合大会での共催セッションを充実させる形にすることは可能なのではないか。
- ・2025 年福岡大会は 5 日で会場を押さえているので、試験的に活用いただくのは構わない。
- ・2026 年京都大会で押さえている会場はポスターを対面で行うスペースはない。移行期間と考える。

- ・ポスターは対面が望ましいが、関西支部では難しいと感じている。理事会で決まったとして、支部に押し付ける形としたくない。福岡大会で実施してノウハウを関西に伝えて頂くありがたいが、会場を確保する必要がある。
- ・2026年京都はポスター会場とハイブリッド開催がネックである。今までのノウハウにないことをやることに抵抗がある。相談はしてみる。
- ・九州は仙台支部の経験を参考にして対応している。
- ・支部実行委員会の意見を尊重することを確認する必要がある。
- ・できることから支部と相談して始めたい。
- ・時期を決めることは難しい。3年前から会場を探す必要がある。次期理事会を縛りたくない。

気象学会独自の大会を年1回とする点について総会で理事長が発言することを了解するとともに、移行時期や具体的な運営については、第43期で引き続き検討を進めることとした。

2) 業務執行理事の報告

庶務担当理事・・・以下の内容が報告された。

- ・掲載許可
許可依頼なし
 - ・後援名義等使用依頼受付
 - ①名称：日本流体力学学会 年会 2024
主催：日本流体力学学会
期日：2024年9月25～27日
会場：フォレスト仙台（宮城県仙台市）
名義：協賛
 - ②名称：第41回エアロゾル科学・技術検討討論会
主催：日本エアロゾル学会
期日：2024年8月20～22日
会場：工学院大学（八王子キャンパス）
名義：共催
 - ③名称：日本機械学会 24-38 講習会「流体とインフォマティクス」
主催：一般社団法人 日本機械学会
期日：2024年4月25日（木）
場所：オンライン開催
名義：協賛
 - ・寄附者リスト（2024.2.2～2024.3.28）なし
 - ・学会賞、正野賞、岸保・立平賞の投票結果
- 会計担当執行理事・・・以下の内容が報告された。
- ・2024年1, 2月分の収支及び現預金検査報告

- ・流動資金（運転資金）の月毎の推移
- ・2023年度秋季大会決算報告
- ・研究連絡会補助金実施報告（航空気象研究連絡会）
- ・第36回夏期特別セミナー（気象夏の学校）開催案

3) 委員会報告

講演企画・・・以下の内容が報告された。

- ・2024年春季大会の準備状況.
- ・参加者数，講演数は昨年と比べて大きく減っている.
- ・2024年度秋季大会の準備状況（つくば）
- ・専門分科会7件

以下の意見があった。

- ・講演件数が少ないのは残念。理由が気になる。1件当たりの時間が20分になると密度が低い発表が多くなり問題である。JpGU 連合大会に早めに移行する方が良い

天気編集・・・以下の内容が報告された。

- ・2024年2,3,4月号の掲載記事と，2024年5月号の予定記事.
- ・掲載料免除申請1件

気象集誌編集・・・以下の内容が報告された。

- ・Vol. 102 No.2（2024年4月）の掲載論文と，Vol. 102 No. 3（2023年6月）の掲載予定論文。審査中の論文リスト。

気象集誌/SOLAのSpringer/Natureへの移行について，契約書案が提示され。6月には契約に入りたいとの提案があった。以下のような議論のあと，移行を進めていくことが賛成多数で承認された。

- ・理事会でしっかり議論することが大切。
- ・懸念はあるが，前回提出し説明した資料で理解頂きたい。
- ・懸念する事項については，定期的に理事会で状況を共有・フォローアップして必要な対応をしていくことが大事。
- ・投稿システムの準備があり，7月に遅らせることは可能かもしれないが，8月は難しく，翌年にずらすと，契約額が変更となるので，速やかに進めることができると助かる。
- ・編集作業の苦労を考えると，移行はメリットも大きく大変理解できる。
- ・早急に移行すべき。
- ・前々回の理事会での質疑で、懸念事項であった、APCが上がりすぎて手の届かない雑誌になる危険性については、そうならないように都度交渉することで回避するという、うまくいかず撤退を決めた場合でも論文のPDFが学会に返却されることが確認できた。また、前回の理事会でオープンサイエンスの専門家からのレクチャを受けるなど十分に議論も尽くせたと考える。賛成する。ただし、契約書については十分吟味したうえで締結が必要である。

SOLA 編集・・・以下の内容が報告された。

・論文の投稿・公開状況.

・2024年1~2月の掲載論文：7編

名誉会員推薦・・・以下の内容が報告された.

・前回理事会で推薦候補者が現在会員でないことの扱いが議論となり、委員会で再検討した。今までの功績から、推薦することは全く問題ないとの結論に達した。

全会一致で承認した。

学術・・・以下の内容が報告された.

・学術委員会で作成した「日本の気象学の現状と展望」の原稿を、会員からのパブリックコメントを受けて改訂し、改訂版を「天気」に投稿した。

教育と普及・・・以下の内容が報告された.

・気象サイエンスカフェ第14回つくば2月25日(日)みなと科学館(オンライン併用)
「南極の近年の気候変化と観測—簡単実験による考察と厳寒地での観測—」実際に南極を体験した方の迫力あるお話で、受講者からも好評であった。

・ジュニアセッション5月25日(土)Zoom利用でフラッシュトーク+Gather Townでの討議を予定。

・夏季大学8月3-4日→7月27-28日に変更の可能性あり。男女共同参画との連携を図るため、女子中高生夏の学校が予定されている8月1週を避けるか検討中。テーマ「熱波」

・公開気象講演会11月10日か17日。テーマは検討中。

以下の議論があった。

・ジュニアセッションについて、以前は対面で行われていた。対面の希望もあるが、遠方の参加者からはオンラインの希望もある。JpGU 連合大会に移行すると単独で実施するのは難しい。大会のあり方WGの中で検討して欲しい。

国際学术交流・・・以下の内容が報告された.

・春季大会の最終日にシンポジウムを行う。一般向けにも宣伝する。

<https://sites.google.com/metsoc.or.jp/spr2024/symposium>

・Asian Conference on Meteorology (ACM)が春季大会の翌週行われる。気象学会から参加頂きたい。申請があった学生には旅費の補助を出す。

広報・・・以下の内容が報告された.

・3月22日に第2回委員会を開催した。広報のあり方について、大会等のプレスリリース、支部や委員会との連携、SNSを活用した広報について議論を行った。

・会員サーバは新たにVPSを契約して移行作業を行うことにより強化する。

・法人クレジットカード作成について事務局と相談中。

4) 理事長報告・・・以下の内容が報告された.

・「異常気象の理解と予測に資する科学的基盤の構築」の業績でブライアン・ホスキンス博士とジョン・ウォーレス博士が日本国際賞を受賞した。科学財団が公式に開く受賞記念講演会は4月17日(水)だが、会場(帝国ホテル)が狭いため、4月15日午後3時から東大小柴ホールで講演をお願いすることとなった。対面のみ。

- ・JpGU 理事 20 名が決まった。今後 30 名に拡大する方向で検討中。JpGU の運営に気象学会としての意見を反映させていくためにも、今後、気象学会理事の中からも JpGU 理事が出るのが望ましいと考える。

5) その他

- ①コンサルタントフォローアップ

3. その他

1) 第 43 期に向けた引継ぎ資料の作成，第 43 期第 1 回理事会の開催について

- ①委員会引継ぎ資料等の作成・提出など

- ②第 43 期第 1 回理事会の開催

6 月 7 日定時総会終了後、理事長、副理事長および業務執行理事、各委員会の委員長を選定する。

以上について、議事録を作成し、理事長および監事が記名押印する。

2024 年 4 月 15 日

公益社団法人日本気象学会

理事長 佐藤 薫

監事 鈴木 靖

監事 吉田 聡